

## 大学等研究成果の活用に向けて

## ・ ・ 大学等研究成果活用推進支援プラットフォームの活動紹介 ・ ・

○佐竹 弘

(日本専門家活動協会 理事・

大学等研究成果活用推進支援プラットフォーム 代表責任者)

## 1) はじめに

大学等の研究成果の活用は、技術情報を発信する側と求める側の出会いにより始まる。発信する側は、シーズ集など出版物の発行、技術紹介などの展示会への出展、専門分野における学会発表、大学等や公的機関のコーディネータによる紹介、個人・研究室など HP による紹介、大学等の HP の研究者紹介（研究者総覧など）、JST の新技術紹介など多くの方法で行われている。技術を求める側は、それぞれの方法で発信される情報から求める情報の取得に時間と経費をかけ、必要情報の取得に尽力を注いでいる。各大学から発信されるインターネット情報は取得することが簡単であるが、全国大学の情報から必要な情報を取得することは時間的にも難しいのが現状で、利用は特定の目的に限られる。JST の J-Global の情報は全国等大学の研究者の研究活動情報が取得できる。しかし、検索して情報を見るのみで、必要情報を自分の DB として蓄積して応用することはできない。

演者は、各大学等から公開している研究成果情報を独自の DB として情報を収集・蓄積し、全国大学等（大学・高専・研究機関など）の研究活動を簡単・迅速に検索できるシステムを構築した。このシステムを活用して企業、大学等への情報提供を行い、知の流通支援を行っている大学等研究成果活用推進支援プラットフォーム（URAPP と示す）の活動について紹介する。

## 2) URAPP の活動

URAPP 活動の概要を図 1 に示す。

活動は、①URAPP 活動の基盤となる管理者専用 DB の構築、②会員がコーディネート活動等に活用する会員専用 DB の構築、③会員専用 DB の配布と更新データの配布、④企業、会員（コーディネータ等）、大学等の調査依頼への対応の 4 事業を行っている。特に、会員・企業等からの調査依頼に対する情報提供を中心として活動している。

## 3) 管理者専用 DB と会員専用 DB について

URAPP の活動の基盤は大学、高専、国研究機関などの研究情報を集積した DB が中核となる。

## (1) 管理者専用 DB (URAPP の活動基盤情報)

①大学等研究情報：大学等の研究者総覧（研究者紹介など）、研究シーズ、特許、各研究者の公開 HP、国研究機関等の研究者紹介などの Web 情報から集積した。現在、311 大学等、6 研究機関、東京大学など 6 大学、JST の新技術紹介など毎月の公開情報 17 万件の研究情報を集積している。情報の集積方法、情報の管理・更新方法は公表できない。管理者専用 DB は非公開で管理者のみしか利用できない構成になっている。この DB の特徴は収集した情報元にインターネット上でリンクしており、URL をクリックのみで短時間に元情報が閲覧でき、新規の研究者の情報が収集できるシステムになっている。また、国立大学の情報は毎年更新し、他の大学等は 2 年以内には更新を行っている。

## ②企業事業情報（今回は発表しない）

## (2) 会員専用 DB

会員専用 DB は、研究者のキーワード、現在の研究テーマ、シーズ、特許などを簡単に紹介している。簡単な情報であるが、URL をクリックするのみで、研究者総覧などの元情報が閲覧できる。また、大学の HP、研究者総覧、シーズなどの各大学等の研究情報の URL も登録されており、大学の研究情報が簡単に閲覧できる。研究者の氏名から検索により JST の J-Global の研究者情報も簡単に取得できる。この情報は、毎月更新・追加され、現在 17000 件の研究情報が収録されている。

#### 4) 活用方法の事例

##### (1) 会員専用 DB の活用

###### ①検索方法

会員専用 DB はファイルメーカ、アクセスで構築している。ファイルメーカは個人的な DB の構築や検索環境の構築、エクセルでの報告書作成などが容易であるという特徴がある。ファイルメーカ DB の活用にはソフトを購入する必要がある。アクセスはほとんどの PC 利用者がソフトを保有している。両ソフトとも、一フィールド内で検索・情報閲覧を可能にしている。検索は、全国、地域、県、大学等のグループで検索ができ、研究者名、更新月ごと、研究キーワードなど通常の検索が可能で、必要情報が簡単に閲覧できる。

###### ②活用方法

研究者の研究活動情報、大学の公開特許情報（依頼大学のデータを整理）、JST の新技術情報など、全国大学等の研究者の研究活動の調査や企業への情報提供など産学官連携支援者のコーディネート活動に活用できる。

##### (2) 管理者専用 DB の活用

###### ①検索方法

DB はファイルメーカのみで構築している。検索方法はほぼ会員専用 DB と同じである。

URAPP の活動の基盤となる DB で、情報の管理・更新、調査の基礎となる情報が集積され、検索方法はほぼ会員専用 DB と同じである。

###### ②活用方法

管理者が企業、大学、コーディネータなどの調査依頼に対して調査や簡単な報告書の作成などに活用している。

下記のような依頼について対応している。

- ①企業等からの研究開発関連の研究者、研究シーズ（特許も含む）などの調査依頼
- ②産学連携担当者（コーディネータ等）からの調査依頼
- ③大学等の特許や研究シーズ紹介のための研究者の研究活動情報の調査依頼
- ④キーワードで収集した情報の会員専用 DB への公開依頼
- ④大学等研究者への企業紹介依頼（今回は紹介しない）

調査報告の内容は、依頼案件に関係が深い研究者、研究内容であるかを調査依頼側でインターネットを活用して短時間に確認できるデータを提供しているのが、特徴である。

図1 URAPPの活動の概要

